

令和2年度 宮崎県立高鍋高等学校 自己評価書・学校評価書

重点目標	評価項目	評価指標（手段・ゴールイメージ）	自己評価		学校関係者評価	
			具体的取り組み（○成果、●課題、△継続的な課題）	評価	具体的意見	評価
学校経営ビジョン ・生徒一人ひとりがもてる力を十分に発揮して、自己実現に邁進する力を育む。 ・どんな大変な時でも、自ら一歩足を出せる前向きな人間力を育む。 ・社会に貢献できるたくましい人材を育成する。 【目指す学校像】・普通科・探究科学科・生活文化科の3つの科が伝統を守りつつ、一緒になって人財の育成に挑戦していく学校 ・保護者、地域、同窓会との連携による信頼され愛される活力ある学校 【目指す生徒像】・自ら求めて学び、高い志をもって、前向きに考えて目標に挑戦し続ける生徒 ・ニコリ笑って、「先生！大変だけど楽しいちゃが」と言える高校生活をする生徒 【目指す教職員像】・生徒をやる気にさせて、自らも謙虚に学び続ける教職員			評価基準	4：十分達成できた 3：概ね達成できた 2：やや期待を下回る 1：不十分であり改善を要する		
1 確かな学力の向上と進路実現	学力の向上	1. 主体的な学習習慣の確立（自学自習ができる生徒の育成） 2. 校内授業研究の充実による教員の授業力向上 3. 基礎学力の定着 4. 各種模試の活用 5. 読書指導の充実 6. 学習活動を支援できる図書づくり 7. 教室内の学習環境の整備	1. ○年間2回の45分授業期間でBUタイムを実施できた。 ○生徒の要望で多くの先生方が個別指導をしていた。 ●自宅学習時間はなかなか伸びない。 △自宅学習ができるような主体性の育成。 2. ○校内授業研究は、研究授業も実施し、毎回の協議会も充実しており、最終回では県教育委員会から2名の指導助言者がオンラインで参加する有意義な研修会となった。 ●研修の成果が日々の授業でどう生かされているかが不透明。 △授業力向上の評価指標の立て方。 3. ○定期考査前に丁寧な個別指導が行われていた。 ●欠点をとらない勉強にとどまっている生徒が増えている。 △部活動顧問との連携を密にした指導が必要である。 4. ○生徒の進路先への対応を考えた模試が実施できた。 ●模試の結果の分析が、次の取組に活用しきれていない。 △模試と結果と日々の授業のPDCAサイクル構築。 5. ○朝の読書の取組はクラス間に差はあるが、概ね良好。 ○「朝から小論文」も継続できた。 ○校内ヒブリアバトル大会が小規模ながら実施できた。 ●図書館利用者が減少している。 6. △本を読むことから、自ら求めて調べる姿勢に発展させる。 7. ○空調工事で2棟の教室内外の棚が新調され使い易くなった。 ●移動教室の使用状況がよくなく、プリントが散らっていた。	3.0	・まずはしっかりと基礎学力をつけ、進学実績につなげ、成果をアピールすることが大事だと思う。 ・コロナ禍のため、授業時数が減ったとは思いますが、個別指導ができたことはよかったと思う。 ・生徒の進路希望を叶えようと教員が様々な工夫されている点は評価できる。 ・遠隔授業で専門家や他校の生徒と意見を交わす機会はいくらもなかったと思う。 ・遠隔授業の即興型ディベートでは人前で話す度胸と積極性が重要。1年次から慣れさせていくことが大切である。 ・朝の読書は大変よい取組だと思う。 ・探究科学科では、色々な分野の方の講演やワークショップ、フィールドワークや学習合宿など、年間を通してさまざまな活動を実施されており、学習向上に繋がっていると思うので、今後も期待したい。	3.2
	進路実現	1. 進路の早期目標設定の支援 2. 早期からの志望に応じた指導の実施 3. 就職等の多様な進路先への対応 4. 学力検討会・志望校判定会の充実 5. 小論文・面接指導の体系化 6. 国公立大学個別学力試験対策 7. キャリア教育の充実 8. 総合的な探究の時間の体系化	1. ○年間2回のBUタイム等、繰り返し個人面談を行った。 ●コロナ禍で生徒との日常の会話時間が減った。 ●コロナ禍で保護者との面談が十分にできなかった。 △生徒の進路意識を高める仕掛けをしていく。 2. ○2年生の公務員講座を実施し、意識付けを行った。 ●課外の実施内容の精選と希望制による体系的実施の構築。 3. ○就職への対応・指導が計画的に行われた。 ●進路説明会等がコロナ禍で中止になった。 △就職希望者の基礎学力を3年間でしっかりつける。 4. ○学力検討会を実施し、生徒の現状を把握できた。 △学力検討会で模試の結果分析、目標設定、具体的指導等を協議し、その成果を授業を通して成績向上に繋げる。 5. ○全職員に小論文・面接指導をお願いし、多くの先生方が熱心に指導された。 ●担当職員によって指導の頻度や内容が異なり、生徒から不安な声が聞かれた。 △誰が担当になっても十分に公平な指導が受けられるような指導の体系化をする。 6. ○自習指導や個別指導等、多くの先生方が熱心に指導した。 ●コロナの影響で演習時間が十分にとれなかった。 ●空調工事の関係で特編授業の自習教室が確保できなかった。 △進路決定者への先を見据えた指導計画の再考 7. ○ボランティア活動や講演会などへの積極的な参加を促した。 ●コロナの影響でインターンシップができなかった。 △地域の力を十分に活用した組織的なキャリア教育体制の構築 8. ○探究科学科は、これまでの実践を深化させた取組をした。 ○普通科、生活文化科の1、2年生がそれぞれ、年間を通して学年で計画的・組織的に取り組み、発表会まで実施した。 △学校として体系化した取組計画を作成していく必要がある。	3.0	・進路指導や面接指導において、多くの先生方が献身的に対応されている。 ・丁寧な面談を通じて進路目標を明確にして指導されている点を評価したい。 ・自衛隊等への就職についても学力が鍵となるので、学力の向上とセットで引き続きの取り組みをお願いしたい。 ・就職決定率11年連続100%達成は生徒の努力や先生方の熱心な指導の成果であり、素晴らしいと思う。 ・各種検定へのチャレンジのサポートは素晴らしい結果も出ており感心する。 ・今後も大学入試に利用される可能性が高い英検に意欲的に取り組み、成果を挙げている点は評価したい。多くの生徒が英検2級をとれるように取り組んで欲しい。 ・キャリア情報クラスは取組がまだ見えない。地域や生徒が魅力を感じる点を、うまくアピールしていく必要がある。	3.2
	基本的な生活習慣の確立	1. 挨拶ができ、容儀が端正な生徒の育成 2. 時間を大切にしている生徒の育成 3. ルールを遵守し、モラルやマナーを大切にしている生徒の育成	1. ○服装容儀や挨拶は概ね良好。今後も日常指導を大切にする。 ○校門での挨拶・交通指導を一年間継続して実施できた。 2. ○学年主任を中心に継続的に遅刻指導を行い効果を上げた。 ○担任がいなくても朝の読書を始める生徒が多かった。 ●朝の読書・正姿・授業の開始準備はクラスに差がみられる。 3. ○今年度から携帯電話の持ち込みを認め、基本的なルールを定めて、生徒・保護者に周知した。 ●自転車の未施錠が多い。 ●交通マナーに関して地域の方から指摘を受けた。 ○自転車の通行ルートのルールを作り、交通マナーの意識徹底を図った。 ○携帯電話の利用上のトラブル防止のため、人権学習や情報の授業、保健講話等で適正な使用について指導した。 △スマホ持ち込み許可により、生徒の利用について教員間の共通認識、共通理解のもとでの指導が必要。	3.2	・服装容儀や挨拶については良好であると地域でも高く評価されている。 ・携帯電話の持ち込みが許可されたが、保護者としては、連絡手段があるというのはとても助かる。 ・挨拶や身だしなみ、ルールを守ることが社会人の準備期に大切なことであると思う。凡事徹底の精神の教育が大切と感じる。 ・トイレの清掃の充実に取り組んでいるのは良いことだ。	3.2
2 豊かな心の醸成と基本的な生活習慣の確立	人権意識の高揚と心の教育の実践	1. 人権教育の充実 2. 多様な生徒への対応や教育相談の充実	1. ○人権学習の年間学習計画にそって、命の大切さをテーマにした内容を全学年で取り入れ実施した。 ○人権学習の実施前に推進委員会で入念に検討し、授業担当者間で十分な事前打合せを行った上で実施できた。 ○各学期で教育相談アンケートを実施し、いじめやからかいなどの行為の状況把握と未然防止に努めた。 2. ○出席番号を男女混合にしている。トラブルはない。 ○教育相談部や保健室を中心に悩みを抱える生徒の相談に細やかに対応できた。 ○状況に応じてSCや外部専門機関等と連携しつつ対応した。 ○強い特性を抱える生徒に対しては、ケース会議を開いて関係職員で情報を共有し、町内中学校や通級拠点校、大学と連携して指導にあたった。 △担任にばかり負担がかからないよう組織的な対応をする。	3.2	・全国的な傾向として、性的マイノリティへの配慮等から制服の選択制（ズボンORスカート）を導入する学校が増えている。100周年という大きな節目も考慮して制服を変えるかどうかも含め、県内の学校の動向や、生徒会及びPTA役員との議論を積み重ねていく必要があるのではと考える。 ・不登校やいじめが水面下で起こっていないか一人ひとりに目配りを期待する。 ・教育相談については、専門スタッフや関係機関と連携し、とても丁寧に対応されていて評価できる。	3.2
	美化意識、防災意識の醸成	1. 校内美化、清掃活動の充実 2. 防災教育の充実	1. ○毎日の清掃については師弟同行で、取組良好である。 ○特にトイレは生徒会を中心にきれいにする取組をしている。 △クラスによっては教室の整理整頓やペットボトル等の放置が気になる。美化委員を中心に意識の徹底を図りたい。 ○花壇コンクールを実施し、環境美化向上の契機とした。 ●校内の工事やコロナの影響で清掃ができない日が多かった。 ○定期的に防災訓練を行うことができた。 △様々な天候の下での避難や授業時間以外の避難などあらゆる状況を意識して、一層実践的な訓練にする必要がある。 △コロナを考慮した訓練や町との連携がさらに必要である。	3.4	・毎日の清掃活動が前年度より充実されており、評価したい。 ・防災訓練の回数が増えられているが、引き続き効果的な防災訓練を実施することにより、生徒の防災意識の高揚を図ってほしい。 ・自分の身を守りながら、高齢者や年少者という弱者救済もできるような地域や小中保と連携して防災に取り組んで欲しい。	3.4

3 地域に開かれ信頼される活力ある学校づくり	地域・保護者及び小・中学校との連携強化	<p>1. 授業公開の実施</p> <p>2. 中学校との連携の強化</p> <p>3. 地域人材や企業の積極的な活用</p> <p>4. PTA活動の活性化</p> <p>5. 保護者との連絡体制の整備</p>	<p>1. ○コロナ禍でも工夫して授業公開を行った。 ○保護者のアンケート結果は高評価であった。 △地域の塾にも参加を呼びかけ、意見交換を行う必要がある。</p> <p>2. ○管理職が定期的に中学校を訪問し、学校の説明をしたり意見聴取をしたりした。 ●イメージが先行して本校の取組が正しく伝わっていない。 △来年度に向けて、中学校や保護者へ高鍋高校の魅力をしっかりと発信するために、各町との連携にも力を注ぐ。</p> <p>3. ○普通科1年生が周辺5町の役場や企業の協力を得て、地域巡見を実施できた。 ○探究科学科1年生は地域の企業とも連携し、様々な活動に参加している。探究活動を軸に地域への貢献意欲を高めたい。 ○生活文化科の課題研究で、町の商工会と連携して取組んだ。 ○生活文化科の講習会で地域の人材による新たな取組をした。 △地域の人材の活用を通して、地域の理解とともに、進路に関する理解や目標を見出せるような学校としての取組をする。</p> <p>4. ●ほとんどの行事が新型コロナウイルスの影響で実施できなかった。 ○今までのPTA活動の在り方を見つめなおしたり、各活動の意義や必要性について考えなおすきっかけになった。 △本場に必要とされるPTA活動を検討し、PTA理事の方々と協力して、工夫・改善していく。</p> <p>5. ○コロナの状況について、メールとHPの両方を使って迅速な連絡を行った。 ○Wifi環境が整っていない生徒の把握をして、確実に連絡するようにした。 ○コロナに関連したパスワード付の特設ページを開設できた。 ●保護者に連絡をしても読まれているかの確認ができず、生徒に連絡が届いていないことがあった。 △コロナによる休校等の状況になることを想定し、確実な保護者への連絡体制の構築が急がれる。</p>	<p>3.5</p>	<p>・授業公開に参加した地域の人からは、よい評判が数多く聞かれた。 ・授業公開は良い取組みだと思う。 ・授業公開の参加者を増やすためには、昨年度のように土日に実施するほうがよい。また、高鍋高校の授業をアピールする機会とするなら回数を増やしたほうがよい。また、1、2年生などの早い段階で授業を体験することで高鍋高校を志望校にするのではないかな。 ・中学校との連携については、準備をされる先生方のご負担は大きいものと推察します。参加生徒の満足度が高かったとのことなので、可能な範囲で引き続きの取り組みをお願いしたい。 ・地域の人材を積極的に活用され、様々な学びの機会を設けておられる点は評価したい。 ・PTA活動の活性化や連絡体制の整備がこれまで以上に図られていることは評価したい。 ・コロナ禍においては、確実な連絡は不可欠であるので、ホームページの「学校関係者のみなさまへ」の新設はありがたいと思った。 ・メールでの連絡は確実なので、メールでの連絡を増やすとよい。 列車の運休状況等の連絡は、保護者の安心にも繋がった。</p>	3.8
	広報活動や情報発信の充実	<p>1. 生徒募集活動の充実</p> <p>2. 多様な情報発信と内容の充実</p> <p>3. PTA広報活動の促進</p>	<p>1. ○今年度はコロナ対応で夏のOSは中止したが、中学校からの要望を受け、急遽秋に工夫しながら計画・実施した。 ○秋のOSは中学生・保護者・職員から高い評価を得た。 ○校内でも、来年度は夏と秋に縮小しての2回実施すべきとの意見が出た。 △来年度に向けて、中学校や保護者へ高鍋高校の魅力をしっかりと発信するために、各町との連携にも力を注ぎたい。 ○中学校主催の高校説明会で3学科の特色等本校をPRできた。 ○生徒による学校紹介ビデオで中学生に楽しく紹介できた。 ○パンフレットとポスターはとても良い出来であった。</p> <p>2. ○新聞・TV・雑誌等のメディアを通じて積極的にPRできた。 ○HPは掲載がスムーズになるように工夫し、部活動紹介のコーナーも年2回の更新を行うことができた。 ○「高鍋高校通信」（主に中学校向け）「高鍋高校だより」（近隣地域向け）によって、定期的に効率よく本校の教育活動を発信できた。</p> <p>3. ●PTA新聞はコロナ禍でPTA広報委員会が機能できず、結果的に渉外広報部職員が作成して発行した。 △新聞・通信等は、今後整理して統廃合や一本化などが必要であれば検討をしていきたい。</p>	3.5	<p>・コロナ禍にあってもオープンスクールを実施できたことで、高鍋高校の良さがきちんと伝わったことは評価できる。 ・中学校に丁寧に説明に行っているのはよかったと思う。 ・地元の中学生に、高鍋高校の悪い面が実際より大きく伝わっているのが気になる。 ・高鍋高校の学校新聞は、評判がよい。 ・高鍋高校の良さがもっと伝わるような内容の発信を積極的にしていくべき。</p>	3.4
4 自主的自律的自己の確立と文武両道の推進	多様な生徒の活動の活性化	<p>1. 委員会活動、各種行事の充実</p> <p>2. 部活動の活性化と学習との両立への支援</p> <p>3. ボランティア活動への参加の奨励</p> <p>4. リーダーの育成</p> <p>5. 個々の活動への支援</p>	<p>1. ●新入生オリエンテーション、歓迎遠足、鳴海ヶ丘祭など、生徒実行委員会と生徒会執行部を中心に準備や運営を行い、生徒の主体性を育む行事が、コロナで中止になった。 ○コロナ禍で諸活動を実施できなかったのが残念であったが、生徒たちはできる行事は全力で取り組んだ。 △定例生徒会は協議内容の共有を図る場を設ける必要がある。 ○生徒会執行部の新たな取り組みが良かった。 ○生徒会が行事ができない中でもよく企画して実行した。 ●生徒会活動のPRが不十分であった。 △コロナ禍での各種行事の企画と運営の工夫が求められる。 ●新しい生活様式に従った「学友団活動」等の地域貢献に向けた活動方法を考えなくてはならない。 ●学友団活動はコロナの影響で不十分であった。 ○コロナの制限下でも、それぞれで工夫した活動ができた。 △個別の学習習慣、生活習慣を確立させる必要性あり。そのため部顧問との連携や面談等が必要である。 △部活動のテスト前の活動の在り方を再考する必要がある。 ●部活動と学習との両立および支援体制ができていない。 △部活動生集会の位置づけについて明確にすべき。 ●部長・キャプテン集会や部活動生集会を定期的に実施したが、部活動生の意識の向上を完全に促すには至らなかった。 ●本校の伝統である学友団活動が、コロナのために実施できなかった。</p> <p>4. ○生徒会は大変意欲的に取り組み活動内容も多岐にわたっている。1年、2年ともに立候補して選ばれている。 ○今年もOSで、生徒主体で学校・学科の説明を行い、中学生やその保護者に積極性をアピールすることができた。 ●コロナの影響で、リーダー育成につながる活動ができなかった。</p> <p>5. ○家庭科技術検定1級では、食物調理、被服製作とも合格率100%を達成できた。 ●キャリア情報クラスの検定受験の手立てができなかった。 △多様な進路実現を可能にする生徒個々の活動を、学校として支援する体制づくりが必要。</p>	3.7	<p>・スポーツ、文化の各大会で優秀な成績を収めている点は評価したい。できる範囲で協力していきたい。 ・部活動のあり方も時代とともに変わっていることを理解し、古きにとらわれずに、伝統を大事にしながらも新しい風を入れて欲しい。 ・部活動の加入率が下がってきているので、今後も対策を練って文武両道の校風を維持してもらいたい。 ・行事や委員会活動を生徒に任せて支援することは、主体性の育成やリーダーシップの養成につながる、社会を生き抜く力が身につくので今後も継続をお願いしたい。</p>	3.4
	5 教職員の資質向上	授業力の向上	<p>1. 校内授業研究の実施</p> <p>2. 教師の指導改善</p> <p>3. 共通テストに向けての研究・実践</p> <p>4. 難関大学レベルの教科指導力養成</p>	<p>1. ○校内授業研究は、研究授業も実施し、毎回の協議会も充実しており、最終回では県教育委員会から2名の指導助言者がオンラインで参加する有意義な研修会となった。 ●研修の成果が日々の授業でどう生かされているかが不透明。 △授業力向上の評価指標の立て方。 ●生徒による授業アンケートを実施できなかった。 ○共通テスト対応の指導法の研究を各教科担当者が進めた。 ●共通テスト対応の組織的な取組が不十分であった。 △各教科で共通テストを分析し、対応できる力をつける授業の在り方を、学校全体で研究する必要がある。</p> <p>4. ○担当の先生方が熱心に個別対応を行った。 △難関大学を志望する生徒の意識付けをする組織的な取組が必要である。 △個人レベルの取組を、大学二次試験の特編授業で難関大学を担当した教員を中心に教科全体へ広げていく必要がある。</p>	3.0	<p>・先生方の授業改善の取組に敬意を表したい。 ・わかりやすく、学習意欲を掻き立てる授業を期待する。 ・授業力の向上が学力の向上に繋がるとは言うまでもない。引き続きの取り組みをお願いしたい。 ・生徒による授業アンケートを実施して、授業改善に生かしてもらいたい。</p>
危機管理やコンプライアンスの意識の高揚	<p>1. 危機管理意識の高揚と危機管理体制の充実</p> <p>2. コンプライアンス意識の高揚</p>	<p>1. ○外部講師を招いて救急法講習会を実施し、AEDを使った人命救助について一連の動作確認を行い、技術向上を図った。 ●危機管理を計画する職員数の配置が十分でなかった。</p> <p>2. ○年間2回コンプライアンスチェックを実施した。 ○教育委員会の専門主幹によるコンプライアンス研修を行い、職員の意識づけを行った。 △今後も、コンスタントにコンプライアンス意識を高揚する研修の実施が必要である。</p>	3.0	<p>・危機管理は特に重要であり、日頃から意識して指導をお願いしたい。</p>	3.4	
働き方改革の推進	<p>1. 時間管理意識の高揚</p> <p>2. 業務の効率化</p>	<p>1. ○益の時期の開庁日設定や長期休み中の課外の精選により休暇を取りやすいよう工夫した。 ●時間外勤務が月80時間を超える教員が多数いる。心身に支障が及ばないように管理職の対応が望まれる。</p> <p>2. ○定例会議をできるだけ隔週での実施にするよう呼びかけた。 ○運営委員会を隔週実施にするよう計画した。</p>		<p>・部活動の熱心な指導に感謝している。一部を保護者が担うなどの協力をして、先生方の超過勤務の手助けができればと考える。 ・業務の見直しなどはできているのか。先生方の健康が心配になる。</p>	3.2	